

教員向け体験活動研修会～学校教育に生かすために～

1 趣 旨

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動を実習を通して体験し、指導の方法やコツを習得する機会とする

2 事業の概要

(1) 期 間

令和4年8月19日（金）～8月20日（土）＜1泊2日＞

(2) 会 場

国立三瓶青少年交流の家

(3) 対象

島根県内の小学校、中学校、義務教育学校及び特別支援学校（小学部、中学部）の教諭、養護教諭、常勤講師等

(4) 参加者（募集35人程度）

11人

(5) 講 師

株式会社 大塚製薬 島口 将人氏

(6) 日程・研修内容

8/19 (金)	9:30	10:00	10:30	12:00	12:30	13:00	16:00	16:30	18:00	19:00	21:00	22:30
	受付・入所	オリエンテーション 開会行事	熱中症対策講義	自然体験活動	休憩	昼食	SAP ～集団・人間関係づくり トレーニング～	振り返り	休憩・夕食	ファイヤーストーム 準備	ファイヤーストーム	入浴・就寝準備
8/20 (土)	6:30	7:00	7:30	8:40	9:00	9:30	14:00	14:30	15:00			
	起床	清掃	朝食・身辺整理	退所点検	ファイヤー片付け	野外炊飯（カレーライス）	振り返り	閉会行事	解散			

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

ア 人間関係づくりのプログラムであるSAP（Sanbe Adventure Program）を1日目に設定し、参加者同士の関わり合いを深めながら研修を進めるようにした。

イ 自然体験活動では、ネイチャービンゴや葉を使ったじゃんけんなど、学校でも実施できる活動を取り入れた。また、ファイヤーストームや野外炊飯では、実際に生徒児童を指導する際のポイントを確認しながら活動を行った。

ウ アクティビティごとにグループ編成を変え、参加者が全員とコミュニケーションを取れるようにした。

(2) 運営のポイント

ア 熱中症対策として参加者に経口補水液を用意してこまめに水分補給をする時間を確保した。また、教員が学校現場で生かせるように、講師を招いて熱中症対策講義を行った

イ 新型コロナウイルス感染症対策として、活動の際のアルコール消毒やマスクの着用を徹底し、朝には検

温確認表の提出を参加者をお願いした。

ウ 両日とも活動の後に振り返りを行い、参加者が気付いたことや感じたことを他の参加者と共有して学びを深める時間を取り入れた。

(3) 広報のポイント

ア 島根県教育センターと連携し、島根県内の2年目教員対象のフォローアップ研修の一貫として登録した。

イ 島根県の各地方自治体の社会教育主事と連携し各学校に周知してもらうことで教員を募ることができた。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	90.9	9.1	0	0
プログラム	90.9	9.1	0	0
運営	90.9	9.1	0	0
職員の対応	90.9	9.1	0	0

(2) 参加者の声

- ・様々な体験をすることができ純粋に楽しみました。
- ・学校に戻ったら子どもたちと一緒に楽しくゲームをしてみようと思います。
- ・心もリフレッシュできました。ありがとうございました。
- ・他の参加者に職場の悩みなどを打ち明けることができうれしかったです。
- ・この事業を通して同じ世代の先生方とのつながりを深めることができた。

5 成果と課題

《成果》

・「様々な体験をすることができ純粋に楽しみました。」というアンケート記述や、体験活動について積極的に学ぼうとする参加者の当日の様子から、教員が体験活動の指導の方法やコツを知る機会とすることができたと考える。

・「この事業を通して同じ世代の先生方とのつながりを深めることができた。」というアンケート記述や、心を開いて話し合う参加者の当日の様子から、教員同士のつながりを深めることができたと考える。

・利用予定の教師の方が参加され、その後の宿泊研修に生かすことができた。

《課題》

・学校教育に生かせる内容として、人間関係づくりのスキル向上のニーズもあったが、今回取り入れることができなかったのも、次回はSAPの時間を多くとり、丁寧に指導したい。

・多くの先生にこの研修会が広まっていないので、募集する範囲を広げたり周知方法を工夫したりしていきたい。



(担当：企画指導専門職兼事業推進係長 其山 佳裕)